

～古賀院長エッセイ～

次代への風



自然治癒力

まずはお知らせからですが、10月に森の木の前に高く林立していた杉が伐採され、以前のような眺望が復活しました。(写真)1階からはよくわかりませんが、3階に来ていただくと浦上水源地がきれいに見渡せ、水鳥が遊んでいる様子も観察できます。自然から学ぶという心身管理の基本があらためて思い起こされます。

一般に、土地とそこに住む人々の暮らしや考え方とは大いに関係があり、その地に特有の産業や文化が生まれ育まれます。歴史もそうやって作られていきます。これは日本に限らず世界中で共通しています。

さて私が、この森の木の土地で医療を始めた動機は、ここの景観にあります。脳神経外科というと、いかにもクールなイメージで、近寄り難い印象があり、実際厳しい診療も行ってきましたが、外科医ができる医療はほんの部分的なことです。近年、医療は専門分化し、部分的医療が益々深化しています。これはこれで必要なことですが、私は最終的にはその人自身の持つ自然治癒力がとても重要だと考えています。

森の木という名称にも表している、この土地の自然が私の医療を考える原点であり、手助けしてもらっている大きな力だと思っています。

皆さんの自然治癒力を最大限に引き出せるように、今後も医療及び環境整備に努めていきたいと思っています。



伐採前



現在



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

病態変化の可能性に0%はない
良しも悪しも常に変わりうる事を予想しておく事

ノーベル賞受賞…
素材の開発や地道な研鑽の結果であり、
それは人材発掘や教育に関しても同様である